

宮崎県では、あなたの挑戦を下支えする 充実の研修制度を用意しています。

みやざき農業実践塾

主に社会人経験のある方を対象に基礎知識や栽培技術を指導します。座学や農業用機械の免許取得に始まり、9月からは苗づくりや作物の手入れに取り掛かります。毎年10数名が入塾し、卒業後は全員宮崎で就農しています。指導体制は統括マネージャー1名、指導教官4名、就農コーディネーター1名で、全員が農家の出身者かつ農業団体の営農指導の経験者。中でも就農コーディネーターは、地域の農業情報を塾生に提供し、就農の道筋をつけてくれるなど頼りがいのある存在です。宮崎県が運営する施設なので幅広い交流ができ、またさまざまな品目から作物を選ぶのも特長の1つです。



各JAトレーニング施設

宮崎県では平成28年頃からJAトレーニング施設の本格的な整備をスタート。現在(2020年2月)、JAグループの県内11カ所のトレーニング施設で研修を実施しています。施設ごとに栽培品目が決まっているので、あらかじめ場所や品目が決まっている場合、トレーニング施設での研修をお勧めしています。研修内容は基礎から高度技術、経営管理能力の習得で、期間は1~2年間です。地域ごとに産地の主力品目を栽培する最新鋭の施設を整備するなど、技術習得のための環境が整っています。研修の同期生やJA職員、各分会メンバーとの交流など人脈形成の機会も多く、農業経営の開始に向けた相談・支援も充実しています。



先進農家研修

宮崎県では就農相談会などで希望品目や就農希望地域を伺ったうえで、県内の先進農家のご紹介なども行っています。就農希望者が現地を視察した際に、「この考え方、この方法に共感した」「こんな農家を目指したい」「師匠直伝の技術を身に付けたい」という場合、就農希望者と先進農家、お互いの意志が一致すれば研修を実施します。本研修では先進農家のトップ技術を、師匠のアドバイスを受けながら直接習得できることが一番の特長。また、師匠との出会いから地域の人脈が広がり、農業情報の収集などがしやすいことも大きなメリットです。



山本さんが師匠と仰ぐ福山さん



あなたに最適な研修プランをご紹介します。
ぜひ、**就農相談会**でお会いしましょう!

宮崎県では農業未経験の方に向け、さまざまな研修の選択肢を用意しています。就農相談会では希望する品目や希望する地域などについて相談しながら、みなさんに一番合った研修プランをご紹介しますので、お気軽にご参加ください。

●宮崎県の新規就農関連情報サイト

マイナビ特設サイト <https://agri.mynavi.jp/miyazaki-ken-syuno/>

みやざき援農サイト <http://www.ennou-miyazaki.com/>



みやざき援農サイト マイナビ特設サイト



お問い合わせ

農政水産部 農業経営支援課 農業担い手対策室 担い手担当

〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号

Tel.0985-26-7124

Mail: nogyoninaite@pref.miyazaki.lg.jp

●宮崎県への移住・U/Iターン情報サイト

あったか宮崎ひなた暮らし <https://iju.pref.miyazaki.lg.jp/>



Grow up
Miyazaki



宮崎県内の就農トレーニング施設MAP



宮崎には、農業未経験者も
安心の研修制度があります。

就農を希望するみなさんの一番の不安は、未経験の自分にも農業経営ができるのかということ。宮崎県では栽培品目や就農希望エリアなど、みなさんのご要望に応じてさまざまな選択肢を用意しています。実際に各施設で研修を受けて独立した事例をご紹介します。

あなたが
実る、
みやざき。



宮崎県 宮崎市 佐土原町 ミニトマト農家
濱本隆宏さん



宮崎なら乗り越えられる。

就農の不安も、苦勞も、



師匠直伝の技と人脈に助けられて今があります。

～先進農家研修での経験より

高校の交換留学でカナダに3年間滞在し、広大な自然に触れた経験から、農業関係に興味を持ち、鳥取県立農業大学校に入学。1年生の時に40日間宮崎の先進農家で学ぶ機会があり、そこで現在の師匠である福山三義さんと出会いました。福山さんは宮崎のピーマン経営の第一人者で、JR九州の農業事業の指導も担当するエキスパート。妥協のないものづくりと農業の未来を語る姿に圧倒され、「本気で農家を目指すなら、こっちで研修を受けて独立したらいい」とのお誘いもあって、卒業後すぐ新富町に移住しました。

先進農家研修では1年間、福山さんに土づくりから収穫までをマンツーマンで学びました。学びの一つは「植物は嘘をつかない」ということ。観察を怠らず、雑草を取り除いたり、最適なタイミングで水や肥料をあげて、必要な環境を整えてあげないと実はつきません。それをあらゆる機会を通じて学ぶことができました。師匠とは今でも教を乞う間柄。こうした貴重な絆を結ぶことが、先進農家研修ならではの魅力だと思います。

就農1年目に口蹄疫が発生、2年目には新燃岳の噴火と東日本大震災の影響で出荷が滞るなど、出鼻をくじかれましたが、これも自然のなせる業と気持ちを切り替えました。年ごとに収量が徐々に増えて、農地も15aから33aまで拡大、今後も技術を磨いて、売上の向上を目指します。今34歳ですが、36歳でローンを完済、40歳で家を建てて、45歳までに更に農地を50aに増やす予定です。



宮崎県 児湯郡 新富町 ピーマン農家
山本智史さん



POINT

続けられる営農のコツ

農地情報の収集やハウスの修理の応援など、いざという時、人脈がモノを言います。師匠を通じて地元で溶け込むことができたのも、研修のおかげです。

だから宮崎

実家の広島で暮らしていた両親も宮崎に移住し、ピーマンづくりを手伝ってくれています。「温暖な気候と気さくな県民性が魅力」で意見が一致しています。



農地探しも自宅購入も農業実践塾が起点でした。

～みやざき農業実践塾での経験より

前職では急成長中のIT企業の営業責任者として、多忙な日々を送っていました。東京に一戸建ての自宅も建てましたが、満員電車での通勤や家族の時間が全く無かった状態を一新したいと、家族で取り組める農業に挑戦することを決意しました。

たまたま参加した就農相談会で、みやざき農業実践塾の所長の長渡英敏さんと出会って意気投合、「とりあえず宮崎に来なさい」ということで、家族で視察旅行に訪れました。長渡さんと農家を数軒回って良い感触を得て、その年の暮れには引越を決め、翌年7月から研修に参加しました。

実践塾では1年間、野菜の知識や栽培技術などの基礎を学びます。周辺の農家への視察の機会もあって、資材の選び方1つにしても、それぞれの考え方を学べたことは非常に参考になりました。研修後、農地探しに関して長渡さんやコーディネーターの方に支援いただいたことも実践塾のメリットです。

現在の農地は、コーディネーターさんと視察の途中にたまたま出会った農家の方が、高齢で後継者もないことからお借りすることができました。中古ハウスの購入や助成金などの支援についても実践塾のネットワークを活用することで、スムーズに手配することができました。

独立して1年目、ハウスの面積は実践塾時代の4倍の16aとなり、作業も増えましたが、どうにか6月末まで収穫をやり切り、10aあたりの平均収量の10tをクリアできました。3年目には更にハウスを14a増やし、妻の手も借りながら規模を拡大しています。今年は更に10a増やして、定植時期をずらすことで売上を拡大する予定です。

地主さんのご厚意で400坪の立派なご自宅も好

条件で譲り受け、生活の基盤も整いました。家族との時間も増え、朝夕食はいつも一緒にすし、東京では参観日にも参加しなかった自分が、今では娘のテニス、息子のサッカーの練習にも付き合っています。今後については法人化の方向ではなく、あくまでも長く農業を続け、農家としてのライフスタイルを確立したいと考えています。



POINT

続けられる営農のコツ

大事なものは「管理遅れを出さない」こと。脇芽や不要な葉を落とす時にはしっかり落とす、実が赤くなったらすぐに収穫し、整然とした状態を常にキープする。管理の徹底が収量に貢献します。

だから宮崎

宮崎は妻の母親の出身地であり、広島出身でカープファンの自分にとってはキャンプ地としてなじみある土地。温暖で暮らしやすいのが一番です。



「IT企業の営業責任者でありながら、家族の時間を持ちたいと農業を志した濱本さん。雇用される立場を抜け出して、農業で独立する道を選んだ石垣さん。そして、ピーマン作りの師匠との運命的な出会いから、宮崎行きを決意した山本さん。動機はさまざまですが、農業未経験からの就農、独立時の苦勞は共通していました。ゼロから農業に挑戦する人たちの意志を、宮崎県では最適な形で実現できるように、3つの研修制度を用意して全面的にバックアップしています。」

研修中に台風。同期の仲間と困難を乗り越えました。

～JAトレーニング施設での経験より



大学卒業後、東京で外資半導体メーカーや玩具メーカーの営業をしていましたが、このまま雇用されて働くよりも、独立して何か始めたいと考えていました。農業には新たに経営を開始する際に利用できる無利子の資金制度があり、各種研修も充実しているので、一から技術を得て、経営していけると感じ、就農を決断。妻の地元のJA宮崎中央の新規就農研修生に応募しました。ここで、宮崎県のきゅうり栽培を築き上げたエキスパートから、栽培技術や農業経営を直接学ぶことができました。

実は研修中に台風で苗の半分が被害を受けました。途方にくれたましたが、これも研修のうちと捉え、苗の植え替えをし、最終的には目標であった県の

指針収量を超える結果となりました。困難を乗り越えた同期の10人の研修生とは強い絆で結ばれ、今も互いにサポートし合う関係です。

独立の際は、青年等就農資金の融資を活用し、14aのハウスを2棟建てました。研修中のハウスは田んぼの土でしたが、ここは畑土なので水を吸収しやすく、水やりの加減で苦勞しました。まだ1年目の収穫が始まったばかりですが、きゅうりの出来としてはまずまずだと思います。

営農の工夫としてはハウスを2棟に分け、栽培の時期をずらすことで、農薬散布や収穫などの作業を分散し、労働力の軽減を図ったこと。今は、妻とシルバー派遣の方の3人で作業を進めています。当面は技術の向上に努め、将来的には同規模のハウスを複数運営し、法人化により経営を継続していくことを目指したいと考えています。

POINT

続けられる営農のコツ

作業を楽にするため、片方のハウスに水や農薬を自動的に散布できる細霧システムを導入しました。労力の削減につながっています。

だから宮崎

妻の実家が高岡に移住しやすい環境が整っていました。義理の父が農地で育てる芝桜は社観で、県の広報誌などでも紹介されるほどです。



宮崎県 宮崎市 高岡町 きゅうり農家

石垣将徳さん

